

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 勝山市立荒土小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒911-0045

福井県勝山市荒土町伊波2-28

E-mail aradosyo@edu.city.katsuyama.fukui.jp

Website http://arasyo892002.mitelog.jp

幼児児童生徒数 男子 52名 女子 40名 合計 92名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「ふるさとを愛し、持続的に発展する社会を担う児童の育成」を学校教育目標として掲げており、ESDの実践を通して子どもたちのコミュニケーション力や発信力の育成や地域活動に積極的に参加することによる心の育成を目標とした。

低学年では生活科、中学年、高学年では総合的な学習の時間を柱にして①環境に係わる取組、②ふるさとに係わる取組、③福祉に係わる取組を行った。

### ①環境に係わる取組

低学年では、一年を通して変化する荒土町の自然（生き物、植物）について触れ合う活動を行った。その中の一環で、毎年5月に稚鮎の放流を行っている。地域を流れる川にも命がある生き物があり、それらを大切だと考えるきっかけになっている。

中学年では、地域を流れる皿川の生き物調査と川の清掃を行った。生き物調査では、きれいな川にしか生息しない生き物も見られ、地域の環境保全を積極的に行いたいという意欲につながっていた。

高学年では、温川に生息するバイカモの保全活動を行った。地域の方にも協力を促し、清掃活動、看板設置、チラシの配布などを行った。また、勝山市のジオパークまちづくり課の方に来ていただき、学校近くの河岸段丘の景観保全活動も行った。

### ②ふるさとに係わる取組

1年生から3年生まで町探検を行い、自分たちが住む荒土町や勝山市のよさをたくさん発見することができた。

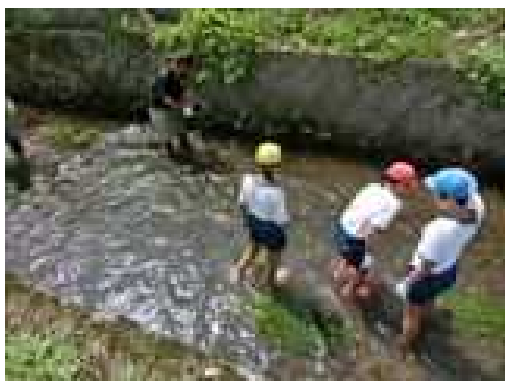
4年生では、地域のふるさとづくり協議会の方に協力していただき、炭づくりを行った。その活動の成果を文化祭にてポスターセッションで発表した。

5年生では、米作りを行った。田植え、稲刈り体験にとどまらず、ブランド米の学習を行い、自分たちが育てた米を販売した。米作りの苦労や販売の工夫について学ぶことができた。

6年生では、荒土町の宝である「妙金なす」「バイカモ」「炭」の3つのよさを地域（荒土町，勝山市）に広める活動を行った。地域の方の協力をいただき、改めて3つのよさを知ると同時に自分たちの周りにいる地域の方の優しさの大切さにも気づくことができた。

### ③福祉に係わる取組

3年生では勝山市にお住まいの先生をお招きし、手話学習を行った。その成果を荒土町文化祭や勝山市総合文化祭などで披露した。



①の写真（5，6年生 温川清掃）



②の写真（4年生 炭焼き体験）



②の写真（5，6年生 年の市販売体験）



③の写真（3年生 手話コーラスを市民総合文化祭にて発表）

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(休日に行われる地域の行事に参加)	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

低学年では生活科，中学年，高学年では総合的な学習の時間を中心に据え，教科横断的な学習ができるようにESDカレンダーを作成し，活動に取り組んでいる。毎年，年度末には子どもたちで活動の見直しを行い，次年度の活動につなげている。

今年度は，子どもたちが学習で学んだことを発信する活動に重点を置き，それらが達成できるよう言葉の力を磨く指導や子どもたちが考える場面の設定の工夫に国語，算数を中心に各教科で取り組み，分かりやすく伝える基礎学習も行った。（発信力，コミュニケーション力）

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため，どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

初めてこの学校に赴任した教員もESDに取り組めるように，毎年ESDのカレンダーを作成し，活動の目安がわかるようにしている。しかし，子どもたちの実態に応じて柔軟に対応できるように毎年，年度初めと年度末にはカレンダーの見直しをしている。

毎年11月に校内発表会を開いており，活動の発信をする場を設定している他に，地域の団体との連携を積極的に行っており，継続的な活動ができています。

子どもたち自身で活動を理解し計画・実践できるように年度初めと年度末には活動の説明会や報告会を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

今年度，児童に対して行った学校生活アンケートの項目に，「荒土町は好きですか。」という項目を追加した。90%以上の児童が好きと答えており，特に子どもたちが多く係わってきた「自然」「行事」「人」の項目を挙げる児童が多くいた。

また，保護者アンケートからは，メディアに取り上げられることで子どもたちの活動が多くの方に伝わってうれしい，地域との係わりを大切に授業が多く，地元が好きになってくれることをうれしく思っているなどの意見をもらった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

校内学習発表会でESDに係る学習の発信を行った。子どもたちが地域に積極的に係わり、自分たちに何かできないかを考えることは、保護者の方にも大変好評であった。また、地域のよさについて初めて知ったという方もおられた。

さらに、新聞やテレビなどのメディアを使った発信により、保護者だけでなく地域の方にも活動について知ってもらうことができた。子どもたちも活動を取り上げてもらうことで、自ら工夫を考えたり、活動したりするようになった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

地域のふるさとづくり推進協議会の方や荒土地区かつやまっ子応援ネットワークの方と連携しながらの活動も多くあった。

ふるさとづくり推進協議会の方には、炭焼き体験、米作り、炭の工芸品作りのお手伝いをしていただいた。また、荒土地区かつやまっ子応援ネットワークの方には、子どもたちの活動を地域に広めるチラシの配布に協力していただいた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

市内の全小中学校がユネスコスクール指定校であり、毎年数回の活動報告会等でそれぞれの学校の活動を紹介したり、ESDの成果と課題について話し合ったりする機会がある。

また、北信越ユネスコスクール交流会やユネスコスクール全国大会にも参加し、教員自身のESDに関する理解を深めている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項2-5に対応

児童が、自分たちが住む荒土町のよさを改めて知ったり、自分たちが荒土町の力になっている実感を話したりすることが多く見られるようになった。さらに、大人になってからも荒土町に住み続けたいと考えている子どもが多くなってきた。

地域の団体と多く係わったり、メディアに取り上げられたりしたことで、地域の方々からふるさとづくりの協力への感謝や教育活動への高い評価をいただいた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

引き続き、地域と協力しながら「環境」や「ふるさと」に係わる学習を中心にESDに取り組んでいく。また、発信の場を活用して、他教科とのつながりをより意識した学習計画を立てていくよう心がける。

特に、高学年では、ポスターセッション、プレゼンテーション、販売体験などを通して、発信の場を多く設け、地域の方に活動を理解していただくと同時に、子どもたちの自信につなげていけるようにする。

【来年度も地域と連携して継続的に行う活動】

- ・ 稚鮎の放流
- ・ 苗木のホームステイ
- ・ 炭焼き体験（炭入れ、炭出し体験）
- ・ 米作り体験（田植え、稲刈り）
- ・ 荒土町文化祭での発信